

## 第2期第8回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年11月29日（土）10:00～12:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階視聴覚室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、押村宙枝、佐合昭浩、  
富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子  
以上 10名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、  
村田担当係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕岩本陽児、太田美帆、菅谷万里子、辰巳厚子、花田英樹

〔傍聴人〕2人

〔資 料〕・第8回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料1～資料10
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告5
- ・第55回全国公民館研究集会について（資料11）
- ・生涯学習センター運営協議会の協議内容について（事務局案）
- ・東京都公民館連絡協議会2014「持続可能な開発のための教育（ESD）と公民館を考える」

### <協議事項>

#### 1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）新春クラシックコンサート「ソロとアンサンブルで楽しむロマン派の音楽」

事務局：市民企画講座の芸術のカテゴリーで応募したものの、落選した企画を、コンサート事業の趣旨に合うよう団体と協議しながら企画した。

（2）コンサート事業「(仮) 心に残るオカリナの調べ ～オカリナ&ギター “ねんど” コンサート」

事務局：事業名は講師と調整中のため、現在は仮称となっている。歌謡曲やタンゴをアレンジし、オカリナの素朴な音色を楽しむ。また、オカリナの作り方や歴史についても解説することで、オカリナという楽器を身近に感じていただくような企画である。

((1)～(2)についての意見・質問)

委 員：(2)のタイトルにある「ねんど」とは何か。

事務局：グループ名である。

委 員：(2)について、例年募集定員に対し、応募者数はどれくらいか。

事務局：クラシックのコンサートについては、毎回募集定員以上の応募がある。

会 長：(1)の出演者である「レガリーノ・デッラ・ムジカ」には何度か依頼しているのか。

事務局：今回が初めてである。

会 長：コンサート事業における出演者については、どのように選出しているのか。

事務局：コンサート事業については従前から行っている事業であり、協力していただける方に相談しながら決めている場合もあれば、担当職員で情報を集め、依頼する場合もある。

(3) 現代アート講座「まちだのアーティストと、今日のアートを知ろう」

事務局：市民企画講座に応募のあった団体のなかから、現代アートについて応募のあった市民団体「アートネットまちだ」、「スケッチルーム」の企画協力を得て実施する。市内の作家に着目し、現代アートとは何かを理解していく。

(意見・質問)

委員：市民企画講座で実現できなかった企画を他の形で実現させるという工夫は非常に評価できる。アート系は趣味の世界で、仲間づくりやまちづくりには繋がりにくい。そのような時、どのような発展性があるか、市民のニーズに合った企画を今後もとりにあげていただきたい。

事務局：アート講座で登壇いただく詫摩氏と先日お話しさせていただいたが、日本とヨーロッパでは美術館の数が全然違うとのことだった。ヨーロッパでは、アートセンターのようなところで若者達が気軽に発表できる場があり、アートの価値は趣味で終わらないものであり、文化的に見直す必要があるのではないかというお話をされていた。アートがある文化生活とは何なのかを考えられる講座にしていきたい。

委員：内容に「3. 11からの版画制作」とあるが、版画美術館と連携してできないか。

事務局：今回協力をいただいている市民団体の「アートネットまちだ」は「版画美術館友の会」のメンバーが多く入っている会で、版画美術館でこのような講座をしてほしいという要望は出しているが、なかなか実現できないということだった。版画美術館にはこの講座について周知し、協力していただければと考えている。

委員：今回市民企画講座で実現できなかった講座を採用したとのことだが、市民企画講座と今回のような講座ではどのような違いがあるのか。

事務局：市民企画講座は5つのテーマに沿うような、限られた枠のなかで企画をしていただいているが、今回のような企画はもう少し枠を広げている。

委員：(1)のクラシックコンサートについては、もともとはどのような企画だったのか。

事務局：企画者の「スクオーラ・デッラ・ムジカ」は西洋音楽史を研究している団体のため、市民企画講座の申込段階では、研究成果を発表し、そのなかでコンサートを行いたいというものであった。今回はコンサート事業として行うため、コンサートのみを「レガリーノ・デッラ・ムジカ」に行っていただくこととなった。

委員：市民企画講座で行いたかったことは100%できないとしても、少しでも実現できるのはありがたいことである。

(4) 市民企画講座「わたし流子育ての見つけ方」

事務局：「地域づくりのなかの子育て」をテーマにした講座で、鶴川市民センターで行うため、「地域で行う」ということも企画採用の大きな理由になっている。話し合いを中心にした講座にするため、定員は少なめに設定している。参加者同士で話し合いながら課題を解決していただきたいと考えている。今回の募集を抽選としたのは、参加者同士で知り合いが多いと地域のなかで広がりが少ないため、なるべく知り合い以外の方に参加していただきたいと考えたためである。

(意見・質問)

委員：定員をここまで少数にしたのは何故か。

事務局：継続的に参加していただき、確実に発言の機会を設けたいという企画団体の趣旨で、今回は16名の定員とした。

副会長：地域で行うことの意味を考えると、16名の定員はもったいないと感じてしまう。

委員：鶴川地区ではない方も申し込むことはできるのか。

事務局：企画団体が鶴川で活動している団体なので、自分達の活動の輪を広げたいという思いはあると考え、地域については考慮されるのではないかと。

委員：地域のなかでつながりを広げたいのであれば、その地域の住所の方は優先するという事項は設けても良いのではないかと。事業によって条件を変えることで、目的が明確になると考える。

委員：今後他の地域でも行う予定はあるか。

事務局：今回は市民企画講座で実施するものであり、現在のところ継続して行う予定はない。

(5) 市民企画講座「町田で自然災害発生時に何をすべきか」

事務局：陸前高田市の支援に取り組んでいる団体による市民企画講座である。前半は朗読劇、映画上映等を行い、後半は防災安全課職員や、実際に陸前高田市へ支援に赴いている玉川大学の方達のお話を聞きながら意見交換をしていく。

(意見・質問)

会長：募集定員を100人としたのはなぜか。

事務局：話し合いの規模としては少し大きいかもしれないが、学習室の定員も考慮したことと、1回のみ参加者も想定したためである。

委員：市民企画講座はできるだけ話し合いの時間を設けるよう実施していただいていると思う。良い講座とは思いますが、市民企画講座の意味を考えると、今回のような企画は別の事業で共催のようなかたちで行い、市民企画講座はもっと形態に合ったものを実施した方が良いのではないか。

事務局：当初は話し合いメインの企画だったが、検討を進めるうち今回はこのような内容になった。市民企画講座の目的については今一度確認しながら進めていきたい。

(6) 市民大学特別講座「町田の民俗」

事務局：市民大学では、これまで通史を行ってきたことで町田の民俗に特化した講座ができなくなっていった。そのようなこともあり、2014年度はプログラムのなかで通史を学びながら、別枠で民俗学についても取り上げたいという思いが年度当初からあり、今回実施するものである。全4回で、町田の民俗総論、石造物、野津田年代記について学び、最終回はフィールドワークを行う。この講座で市民大学を周知し、来年度の募集を行いたい。

(意見・質問)

委員：市民大学のプログラム委員の方は関わっていないのか。

事務局：郷土史のプログラム委員の方は関わっており、市民大学の通常の講座と同じ過程でつくっている。

委員：市民大学の特別講座として民俗学をとりあげたのは、どのような意図があるのか。例えば、歴史以外のテーマで特別講座を行うことは可能か。

事務局：これまでは通史のみを行っており、通史だけではない学びの機会をつくるため、プログラム委員の皆さんが提案された。また、特別講座はプログラム委員だけでなく、タイムリーなものを職員側からも提案していくような講座も必要ではないかということで、特別講座を取り入れたという経緯がある。歴史以外のその他のテーマで特別講座を行うことも可能である。

会長：市民大学のなかでも多くの人に受けてもらいたいものは、公開講座として市民大学講座の受講者以外の方も参加できる。ただ、公開講座は回数も少ないため、別途特別講座も実施しているのだと思う。市民大学について見直すための、良い取っ掛かりになると考える。

## 2、事業評価について

### (1) 生涯学習ボランティアバンク1日体験講座

事務局：10月1日から7日の間で、ボランティアバンクのPRを兼ねた1日体験講座を実施した。期間中台風が接近した関係で、14講座中4講座が延期となった、4講座については1月頃、改めて実施したいと考えている。そのため、今回の評価シートは実施した10講座についてお示しする。10名の方に講師をしていただいたが、なかには職員任せの部分も多少見受けられたため、事前に頂いたご意見にもあったように、反省会を行う必要があると考えている。基本的には講座実施後、職員と講師でアンケートに目を通してはいるが、1日に複数の講座があるとどうしても時間がとれないため、1つ1つの講座を丁寧に振り返る必要がある。また、ボランティアバンク登録時に基本的な説明はしているが、時間が空いてしまうと曖昧になってくる部分もあるため、2月頃にスキルアップ講座を予定している。登録者に集まっていたら、自分達が持っている知識をどのように相手に伝えるか、見せ方やコミュニケーションの方法を学び、ボランティアバンクの趣旨を改めて伝えていきたい。また、ボランティアバンクの利用について、昨年度は12件だったが、今年度はすでに利用が17件、その他数件の依頼があった。1

日体験講座の効果もあり、依頼件数は増えてはいるが、まだ充分とはいえないので、今後もPRに向けた事業を展開していきたい。

(意見・質問)

委員：今年度の依頼数と利用数を数字で表していただきたい。

事務局：次回お示しする。

委員：評価シートの「担当者所見」に、「利用に繋がるように施設や学校等にもっと興味を持ってもらえるような工夫が必要である」とあるが、「施設」とは具体的にどのような場所を指しているのか。

事務局：これまでは施設を利用している団体にPRを行ってきたが、急に利用していただくのは難しいので、実際にイベントや講座を普段企画している方に対してアプローチしていけば、利用に繋がるのではないかと考えている。具体的には、高齢者支援センターや、学校支援ボランティアコーディネーター等にPRを行っていく。

会長：参加者の中にボランティアバンク登録者はいたのか。

事務局：企画に興味を持って講座に参加した方が大半で、教える側としてボランティアバンクに登録したいという方は殆どいなかった。

委員：様々な課題はあると思うが、評価が全てAになっているのは何故か。

事務局：ボランティアバンク全体としての課題はあるがPRの場として評価したため、Aとした。ただ、おっしゃるとおり課題はあると感じている。

委員：評価の基準については「ボランティアバンクの登録者を増やしたい」、「ボランティアバンクの利用者を増やしたい」、「登録者の技量を上げたい」という3つの基準があると考えます。登録者の技量を上げたいという点では、今回の講座は非常に良かったので、Aでも良いと考える。登録者のスキルアップの機会はなかなかなく、実際やってみると相手にうまく伝わらなかったり、相手から別の要求をされたりと、うまくいかない場合がある。そのような時にどのような対応をするか学べる場が非常に少ないため、ボランティアを实际行ううえで非常に貴重な場である。今後も継続して実施していただきたい。

委員：1日体験講座において、ターゲットを誰に絞るかが1番重要である。この講座を行う意図を教えてください。

事務局：まずは生涯学習ボランティアバンクを多くの方に知っていただき、活用していただくことが1番の目的である。そもそも生涯学習ボランティアバンクは「市民同士の学び合い」を趣旨としている。市民同士の学びの輪を広げるため、まずはボランティアバンクを知っていただくことを目的として、この講座を実施した。また、講師側も体験をし、参加者の声を聞いて初めて気づく事もあるので、その辺りも職員含め意識している。

会長：ニーズが多層にあると感じたので、内容を整理し、展開していただきたい。

委員：学校支援ボランティアコーディネーターのお話を伺うと、ボランティアバンク制度について知らない方もいらっしゃる。年に何度かある研修会で毎回PRさせていただいているが、参加者の中に学校支援ボランティアコーディネーターの方はいたか。

事務局：実際にコーディネーターの方が参加されたか把握はしていないが、今回は講座実施にあたり、学校支援センターを通じて、学校支援ボランティアコーディネーターの方へチラシを配布し、PRをした。当日1名のコーディネーターの方が見学された。

## (2) 福祉総務課共催「知って安心！成年後見制度」

事務局：成年後見制度を所管している福祉総務課との共催講座で、企画にあたっては、実際に高齢者の成年後見制度を担当している社会福祉協議会、障がい者の成年後見を担当しているひかり療育園、市民企画講座に応募いただいたかわせみの会、シートラストの会で企画会議をし、実施した。町田市では、2014年度から市民後見人養成事業に取り組んでおり、その前段で成年後見制度についての基礎的な知識を学べる機会を作ってほしいという要望があったため、この講座を実施した。当日は独り身の方など、高齢で今後の生活について不安を抱え、成年後見制度に期待されている方が多くいらっしゃった。しかし、成年後見制度は2000年から始まった制度で完成度が高くない部分もあり、矛盾点もあるので今後もしっかりと学んでいきたいとい

う意見が多数あった。

(意見・質問)

委員：受講率が75%とあまり高くなかったことが残念である。

事務局：当日無断欠席される方もいたが、事前に連絡をいただいた方もいたので、突発的に追加で数人参加いただけた。

委員：成年後見制度の担当部署は福祉総務課だが、生涯学習センターとして制度のPRをしていくのか。共催とのことだが、生涯学習センターはどのような立場で関わっていくのか。

事務局：生涯学習センターとしては制度のPRはしない。1回目に社会福祉協議会の方のお話を設定したのは、制度の窓口を周知するため、生涯学習センターとしては、成年後見制度が自分にどのような関わりがあるのかを学んでいただくことを講座の趣旨としている。

(3) 市民大学前期「現代の人間を科学する」

事務局：今日、科学や医療技術が発展するなかで、ひとのいのちについて考える講座を例年実施している。参加者の意見交換を重視している講座である。

(4) 市民大学前期「まちだdeエコ・ツアー」

事務局：地域で活動している方の元へ赴き、体験することをメインとした講座で、例年実施している。2013年度からはお子さんも参加できるような取組をしている。

((3)～(4)についての意見・質問)

委員：(3)について、かなり哲学的な内容もあると思うが、テーマやプログラムは誰が決めたのか。

事務局：プログラム委員と職員で検討し、決定した。タイトルについてはもう少しとっつきやすいものにするよう工夫していきたい。

委員：「死後の世界」というテーマは稀にみるが、「葬式」についてはあまりテーマに取り上げられない。「葬式」もテーマに取り入れていただきたい。

事務局：市民大学の人間学では科学的にどう考えるかをテーマとしている。2年ほど前にエンディングノートについての講座を、市民企画講座で実施した。今年度のことぶき大学くらしコースでもそのようなテーマを取り入れ、実施している。

委員：評価シートの担当者所見で「20～30代の参加者を増やす」とあるが、このテーマではなかなか難しいのではないかと。人間学で若い世代へアピールするとすれば、自殺や危険ドラッグについて等、テーマを工夫する必要がある。

会長：(4)について、全11回参加するのは難しいのではないかと。

事務局：全ての回参加もできるが、自然保全と街中のごみ問題の2つのコースに分けている。

委員：内容について①～⑪までであるが、それぞれどちらのコースなのかを記載していただけるとありがたい。

事務局：次回からそのようにしたい。

### 3、事業評価について

事務局：運営協議会の協議内容について、事務局案をお示した。2時間ある会議のうち最初の1時間は事業全体の方向性・あり方についてテーマを決めて協議していただき、残り1時間は従前どおり個別の事業評価をしていただければと考えている。事業の方向性・あり方の進め方について、例えば市民大学について協議していただくとして、1ヶ月目は講座見学、2ヶ月目はプログラムの説明、3ヶ月目は生涯学習センター内で行っているその他の事業との関連性について検討し、4ヶ月目で協議していただく、というような流れで、2年1期の運営協議会として1つのテーマを決め、まとめていただきたいと考えている。また、個別の事業評価について時間がかかりすぎていることが会議の中でも問題になっている。2013年度の統計を出してみたところ、6月、9月、10月、2月、3月が特に多く、市民大学やことぶき大学、平和祈念展等、一定の期間に集中して行う講座の企画、評価がまとまって議題で挙げられるため、時間がかかってしまう。そこで、例えば大きな事業については総括シート1枚にまとめ、協議するこ

とで、年間延べ142枚提出していた事業評価シートを、90枚まで削減することができる。それにより事業評価の時間が短縮でき、事業全体について協議する時間が確保できる。このようなことも視野に入れていただき、今後の進め方について検討いただきたい。

会 長：個別事業評価については確かに時間短縮する必要があるが、複数の講座を1枚のシートにまとめたとしても、評価する内容は変わらないので時間短縮はできないのではないかと。現在は月によって事業評価の数に偏りがあるため、1ヶ月10件以内にし、平均化する等工夫が必要である。評価シートの様式変更とあわせて検討していきたい。また、事業の方向性・あり方について事務局からも提案していただいたが、市民大学について見直しの時期にきているため、この流れで協議を進めてよいと考える。まずは講座を実際に見学し、プログラム委員とのかかわり方や、ことぶき大学等の他の事業との関連性についても検討していきたい。

副会長：講座の見学とは、実際に講座に参加するのか、それとも運営協議会委員として見学するのか。また、プログラム委員とはどこまで関わって良いのか。

事務局：あくまでも例だが、まずは市民大学の概要説明をさせていただき、その後個々の講座について、場合によっては運営協議会の時間内でプログラム委員からお話を伺うことも可能だと考える。実際に講座の企画・運営がどのようにされているかはプログラム会議を見学していただくのが良いと考える。講座の見学は運営協議会とは別に時間を作っていただく必要があるが、グループ分けをして複数の講座を見学していただくという方法もある。

会 長：プログラム委員会議はいつ開催されているのか。

事務局：大体12月末から2月上旬頃、週1回程度行われる。

会 長：そこで前期の方針を決めるのか。

事務局：後期もあわせ、年間の方針を決める。

会 長：以前運営協議会委員とプログラム委員で議論をしたことがあった。2年ほど行っていないので、プログラム委員がどのような想いを持っているか知りたい。

副会長：現場を知らないと見えないことも多いので、講座見学は大事なことであると考えている。また、講座がどのように企画・進行しているのかを把握しなければ、プログラム委員に対して意見を言う立場ではない。プログラム会議についても見学させていただき、まずは現場を知りたい。

事務局：市民大学は大きく8コースで分けており、1コースあたり10講座前後ある。例えば複数のグループに分かれ、興味のある講座を見学していただくことも可能である。また、1997年にまちだ市民大学HATS運営協議会にて市民大学の見直しを行っており、当時の構想の資料等も提示させていただきながら、変遷についてもご覧いただきたい。

会 長：福生市の市民大学では、大学の機能として様々な講座を受け、卒業資格が得られる。町田市は各講座を受けていただいているだけなので、複合して教育しているという体系がない。福生市のやり方が市民大学の本来のあり方ではないかと感じていたので、その辺りも含めて協議したい。

委 員：市民大学について協議するのであれば、他市の市民大学についても調査すべきである。それと並行し、市民大学ができた経緯についても整理し、学んでいければよい。その後講座見学、最後にプログラム委員と協議を行いたい。事前の調査・検討が充分でなければ、基盤がないのでプログラム委員ときちんと話し合えない。また、市民が市民大学に何を求めているかをしっかりと把握する必要がある。

会 長：ここ数年は市民大学の詳細については運営協議会として関与していない。外部からの意見も必要なので、段階を踏みながら行っていきたい。事務局に例として挙げていただいたが、市民大学をテーマに協議を行ってよいのではないかと。

委 員：市民大学について議論すると、必ずことぶき大学の話が出る。市民大学とことぶき大学の交流や相互調整、話し合いは行われているのか。

事務局：ことぶき大学については、基本的には職員がこれまでのアンケート等を基に企画しており、ことぶき大学の担当職員の何名かは市民大学の担当も兼務している。今のところそのような場はない。

委 員：例えば、ことぶき大学と市民大学を一本化することは可能か。

事務局：予算上、ことぶき大学は東京都補助金対象事業だが、市民大学はそうではないため、難しい。

ただ、検討の余地はあると考える。

委員：テーマが何であろうと、事務局から出されたような流れで1つのテーマに沿って情報を集め、期間を決めて進めていくということでのよいのか。

会長：その通りである。1期2年間という期間の中で、何か1つのテーマについてまとめ、第2期生涯学習センター運営協議会として行ったことを残したい。

委員：新年度を迎えた時、2年目は委員のメンバーも変わらないため、それが可能であるが、次の期になるとメンバーも変わってしまうため、同じような流れで進めていけるかは疑問である。今回だけにとどまらず、今後続いていく運営協議会をどのように進めていくかということも含め、スケジュール等検討した方がよい。期間設定等実際進めてみないとわからないとは思いますが、テーマについて協議するのと同時に、しくみづくりについても検討すべきである。

会長：しくみづくりについても、今後事務局とともにたたき台を作成し、会議の中で提案していきたい。また、事業評価についても、評価シートが充実すれば事業評価についても省略化できるとは限らない。詳細に評価しているからこそ我々も事業について把握している部分もあり、欠かせないことだと考えている。その点も含め、今後検討していきたい。

委員：事業評価シートについては事前に配布されているため、意見がある場合は事前に提出しておけば、多少時間短縮できるのではないかと。

会長：そのようにお願いします。

#### <報告事項>

##### 1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～5まで、資料のとおり報告する。

##### 2、センター長報告

第4回町田市議会定例会は、11月28日から12月22日まで開催されている。質問の内容についてはホームページをご覧ください。

また、第10回昭和薬科大学・生涯学習センター共催市民講座について、11月28日にイベントダイヤルでの申込を締め切ったが、まだ定員に余裕がある。より多くの方にお越しいただけるよう、宣伝等ご協力をお願いします。

12月7日14時から16時の間で、障がい者青年学級40周年記念式典を市庁舎で行うので、是非お越しいただきたい。

12月21日に若者向け事業のまちコレを行う。こちらについても是非ご参加いただきたい。

##### 3、東京都公民館連絡協議会について

委員：11月22日に都公連第2回研修会が行われた。東京大学高齢社会総合研究機構の荻野亮吾氏を講師に迎え、「公民館の活性化の方法～関係機関、団体との連携を通じた地域での人間関係づくりの方法～」についてお話いただいた。はじめに、公民館や生涯学習センター職員と話していると、「若者が公民館に来ない。若者は何を求めているのか。」「地域課題とよく聞くが、どのように掘り起こせばよいのか。」「面白い企画が立てられず困っている。良い企画が思いつかず、忙しくて勉強する時間もない。」「外部の方やグループと連携したいが、その方法がわからない。」という相談をよく受けるということで、今回はそれらに対する回答をしていただいた。荻野氏は「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」という、人間関係の広さや深さ、厚みを大切にする考え方で、地域での人間関係が良い状態であれば、経済、安全、健康、教育等あらゆる面で地域全体が良くなる。また、地域における良好な人間関係を築く場として公民館・生涯学習センターの役割があるのではないかとのことだった。荻野氏は、長野県飯田市や、大分県佐伯市、千葉県柏市などの地域の人脈づくりのため、実践を通じて得たデータに基づき取組を行った。また、NPOが運営しているシブヤ大学では専任スタッフが2名しかおらず、講座については総勢200名のボランティアスタッフがカリキュラムを決め、運営も中心となり行っている。参加者は20代から30代が7、8割で、登録者数は17,000人になる。地域の条件に応じてこのような組織が作れる場合もある。

委員：10月16日、17日に熊谷市で開催された第55回関東甲信越静公民館研究大会について報告する。埼玉県知事、文部科学省生涯学習局長含め約1,000人が参加した。現在公民館は国からの補助金もなかなか出ず、非常に厳しい状態であるが、大切な役割を負っているということを再認識した。市民リーダー人材よりも公民館運営人材を育成することが大切であること、地域に特化したテーマや問題を明確にしている約80事業に対して国は補助し、それ以外の活動は全面的にカットされている。文部科学省生涯学習局長のお話では、現在全国の公民館数は2割ほど減っており、利用者は横這いということで、公民館が減少している原因として市町村統合や、国からの予算、職員が減っていることにあるのではないかと。テーマとしては「まちづくり」、「高齢者福祉」、「女性青少年のための学校と家庭と地域の連携」の取組が挙げられた。作家森村氏のお話では、人生には学校で学ぶ時代、社会で学ぶ時代、シニアで自由に学ぶ時代の3期があり、人と文化と場所という、3つの出会いがある。特に人との出会いが最も大切で、相手の言葉を単に聞くだけでなく、情緒的な面も聞き分けられるようにならないといけないということだった。また、事例紹介として、熊谷市では公民館が主体となって地域おこしをしており、埼玉県国体で余った予算を地域活性化のため活用し、5つの組織を作った。更に地域づくり応援事業、計画策定のための委員会が立ち上がり、公民館主体から住民主体へと移行しているということだった。その後参加者で意見交換を行い、最後に新潟の大学教授より、コミュニティ活動とは隣人を「助け合う」というより「かまひ合う」という意識で、見ず知らずの場所で人と知り合う訓練が必要であること、また、公民館は新しいものを作るより原点に戻り、裸の付き合いで心身が温まる「コミュニティ銭湯」にすべきだというお話があった。

#### <その他>

##### 1、東京都公民館連絡協議会2014について

事務局：2015年1月16日に、東京都公民館連絡協議会2014「持続可能な開発のための教育（ESD）と公民館を考える」が開催される。委員の皆様にも是非ご参加頂きたい。